

日本語演習Ⅱ

福留 伸子

Japanese Language Seminar Ⅱ

FUKUTOME Nobuko

(本稿は2003年2、3学期についての授業報告である)

週1コマ(10週)

登録者数 (3~7人)

レベル 上級

目標

学部の学生が対象で、専門の授業などで実際に役に立つ研究レポートのまとめ方と発表の仕方を学ぶことが目標である。

授業内容

各自が選んだテーマについて資料収集、資料読解、アンケート調査などを行い、研究レポートの体裁にまとめ、視覚資料を作成して15分間の発表を行う。

授業は基本的に『研究発表の方法』(齊山弥生・沖田弓子、発行 産能短期大学)に沿って進め、学生は次のような行程を踏む。

1. 興味あるテーマを見つける
2. 主題文を書く
3. 資料収集の方法を知る 一図書館オリエンテーション出席確認。互いの検索術交換
4. 仮アウトラインを作る
5. 資料収集を行う
6. アウトラインを修正する
7. 発表の内容をイメージする、モデル文読解
8. 発表原稿を仕上げる
9. 発表原稿の日本語のチェックを受ける
10. パワーポイントなどにより発表資料を作る
11. 発表の予行演習をする

12. 発表する
13. クラスメートの発表を評価する
14. 自分の発表の録音テープを聞き自己評価と反省点をまとめて提出する。

授業内では学生の作業を支援、促進させる目的で以下の活動を行う

1. 初日の授業で、オリエンテーションと日本語力チェックを行う。日本の社会問題を扱った短い文章を読んで、約15分間クラスで意見交換を行ったあと、各自の意見を400字~800字でまとめる。次回までに、発表の研究テーマを決めて、その主題文を書いてくることが宿題である。テーマは、主に現在の日本に見られる社会現象や社会問題の中から各自が興味あるものを選ぶ。しかし、学生本人の関心を最優先としており、上記のものに限定することはしない。
2. 各自の決めたテーマについて、クラスでその選択理由と調査項目を発表したあと、相互に質問交換をする。このとき、短時間でもまとめられるようできるだけ焦点を絞るよう指導する。仮アウトラインを作成してることが宿題である。
3. 各自が仮アウトラインを発表し、相互に項目の設定の仕方や資料収集の方法、調査方法を検討しあう。仮アウトラインを修正し、具体的に資料収集を開始することが宿題である。
4. 修正後のアウトラインや資料収集の進行状況を発表しあい、研究項目や調査方法を見直す。
5. 資料読みを行ったり、作成したアンケート調査表について検討しあう
6. パワーポイントによる発表資料の作成
7. 発表原稿及び資料の日本語チェックを教師と行う
8. 発表の予行練習をする。
9. 発表する。相互に評価表を記入しながら聞く

テーマの選択及び研究方法について

2学期には、選んだテーマに対して学生の日本語力や知識があまりにも不足していたため、適当な資料を見つけ出すことができず研究レポートを仕上げられそうにないことが途中でわかり、仮アウトラインを書き上げるところまでで終わったケースがあった。そこで、研究テーマを変更し、資料読みが特に必要とされない、日本人学生と留学生を対象にしたアンケート調査とその結果報告の発表に切り替えて指導を行なった。また、大き過ぎるテーマを取り上げたため、アウトライン作成後に、部分的に1章分だけをまとめ、発表を行うことになった学生もある。

3学期は2学期の反省から、テーマの絞込みを十分にさせるようにした。また、内容を社

会現象や社会問題に限定せず、学生自らが取り組みやすいと思うものにした。

研究方法として、資料読みだけではなく、アンケート調査なども積極的に取り入れてその分析結果をもとに発表を行うように指導した。下に、学生の発表テーマを示す。

学生の研究発表テーマ

2 学 期	3 学 期
地球の温暖化	日本の若者の外国語習得
少年犯罪とその深刻さについて	日本の少年犯罪
日本人大学生と留学生の生活意識調査	日本で考えさせられた時間—ホームレス
	筑波大学生の時間の過ごし方
	日本人は占いが好きなのか
	家庭内暴力としての児童虐待
	日本とタイの結婚式・披露宴の比較